

総研大ニュースレター

第8号 2009.1 発行

● 目次

- 【今月のトピック】** 「総研大創立20周年イベント合同フォーラムを開催
総務課広報係」
「第2回総研大ワークショップ開催 全学事業推進室」
「平成20年度総研大文科・学術フォーラムについて 文化科学研究科」
「総研大レクチャー：アジア冬の学校2008 物理科学研究科」
- 【各種募集】**
【イベント情報】
【編集後記】

【今月のトピック】

「総研大創立20周年イベント 合同フォーラムを開催」

○プログラム

12月1日(月)

- 13:00-13:10 開会挨拶 高畑尚之学長
13:10-14:10 基調講演 「複眼的視点のすすめ ー共生と調和を求めて」
長倉三郎初代学長
14:20-15:00 講演1 「化学(分子科学)は地球環境・エネルギー危機の『救世主』となり得るか？」 平田文男 分子科学研究所教授
15:30-16:10 講演2 「宇宙輸送の将来と目指すべき次のゴール」
稲谷芳文 宇宙科学研究本部教授
16:10-16:50 講演3 「脳科学への期待と限界」
南部 篤 生理学研究所教授
16:50-17:20 総研大20年の歩み
18:00-20:00 レセプション(村センター) 挨拶 野村雅一 副学長

12月2日(火)

- 09:10-09:50 講演4 「検索から連想へ ー文化的な情報の蓄積を発想力に換える」
高野明彦 国立情報学研究所教授
09:50-10:30 講演5 「設計科学の文法を目指して」
椿 広計 統計数理研究所教授
10:50-11:30 講演6 「いつかは滅びゆくわれわれの未来」
齋藤成也 国立遺伝学研究所教授
11:30-12:10 講演7 「日本人の自然観、フィールドからの発想」
安室 知 国立歴史民俗博物館教授
12:10-12:20 閉会挨拶 池内 了 総研大理事

創立20周年行事として去る12月1日と2日に葉山キャンパスにおいて、第1回総合研究大学院大学合同フォーラム「未来ある人類社会の構築」を開催しました。この合同フォーラムは、総合研究大学院大学を

構成する基盤機関で行われている学術研究を出発点として、人類の明るい未来につながるような議論を展開させることを目的に実施されたものです。



長倉三郎初代学長の基調講演「複眼的視点のすすめー共生と調和を求めてー」では、学問を複眼的な視点から見るように心がけるという内容で、88歳とは思えない口調で発表されました。その他共同利用機関で研究の最先端を担う方々を講師に招き、宇宙から脳科学、データベース、遺伝学、歴史など多岐にわたる内容の講演が行われました。

合同フォーラムには、大学共同利用機関等の機構長や所長を始め、名誉教授や本学の担当教員も多く参加し、1日の講演後に行われたレセプションではさながら同窓会のような交流が行われました。



【文責：総務課広報係】

「第2回総研大ワークショップ開催」

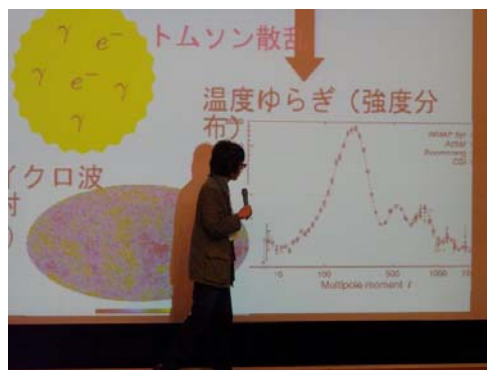
- <日 時> 2008年11月14, 15日
- <会 場> 国立歴史民俗博物館
- <参加人数> 50名

「総研大だからこそできることをやってみよう」と総研大生自身が資金の申請から企画・運営を行う総研大ワークショップは昨年から始まりました。本年度は発表者スタッフを併せて約50名が国立歴史民俗博物館に集まり、11月15, 16日の2日間にわたりイベント開催されました。

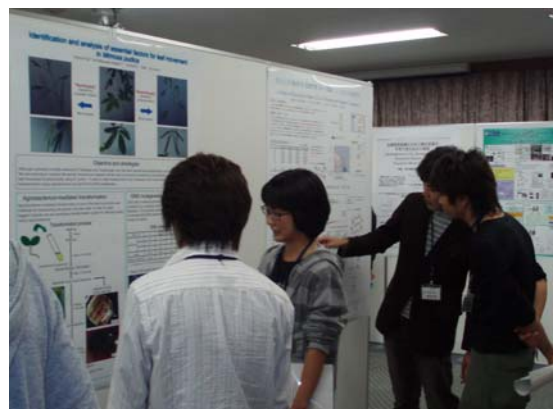
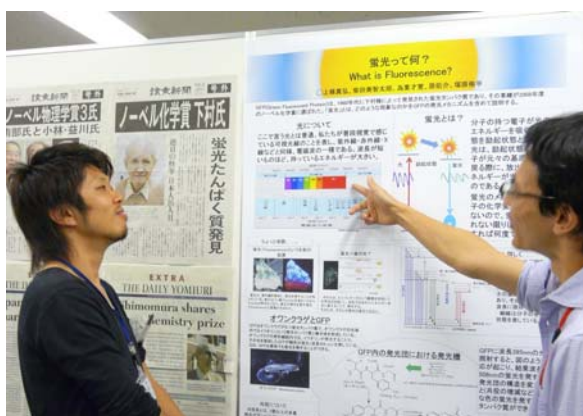
このワークショップは他専攻に友達や議論の相手を増やし、新たな学術交流や共同研究の芽を育てることが目標の1つです。「いかに自分の研究を伝え」そして「いかに異なる分野の研究を理解するか」発表する側も聴衆側も気を抜くことができません。

口頭発表では、弦理論の概念を説明しようとするものや人間型ロボットの協調行動を実現させるための試み、マイクロ波の観測から宇宙の初期の情報を知ろうとしていること、小惑星の地球衝突確率計算、制約が多く作成の難しい勤務シフトのソフトの開発、脂肪の過剰蓄積によるエネ

ルギー代謝の変化の研究など、幅広い研究内容が紹介され、それぞれの発表者は身近な例や噛み砕いた言葉を用いて、他分野の学生に自分の研究を理解してもらおうと工夫を凝らしていました。また、今年は素粒子原子核専攻の名誉教授小林先生がノーベル物理学賞を受賞したことからその研究内容を紹介する演題もあり、質疑応答にも熱がこもっていました。さらに「ハンガリーの民族舞踊と写真収集プロジェクト」の発表では、消え去りつつある文化をなんとか形に残そうとするプロジェクトの重要性を参加者が理解するとともに、技術面での提案もなされ、異分野交流ならではのセッションになりました。



ポスター発表では、南極海の魚類の呼吸器系に関する分子進化、オジギソウの葉の運動、有機導体の電子状態、超電導、金属錯体触媒研究など専門的な内容でも理解できないところは一対一の質問ができるので、あちこちで議論が熱心に行われていました。また、「多くの人により絵を楽しんでもらうにはどうしたらよいか」や、「現代の博物館が抱えている問題点を情報化技術によって解決を図る」など問題解決のための研究もあり、その成果は総研大ワークショップにも応用できるかもしれません。博物館の職員の方から江戸時代の絵屏風のデジタル展示の説明もあり、本当に多彩な話題が提供されました。



今回のトピックは博物館の展示を使ったワークショップでした。専攻をバラバラにしてチームを作り、博物館資料を細かく読み取り、新たな発見をしようとするものです。観察一話し合い一発表を通じてコミュニケーションや常識を覆す研究者の視点の大切さを学ぶことができました。

特に「ちょんまげ」の資料に焦点をあてたチームの発表はおしゃれ一実用面を横軸、毛髪の量を縦軸にした表に集めた「ちょんまげ」をそれぞれ当てはめることにより、江戸時代の学者の「ちょんまげ」は実用本位であり、落ちぶれかかった人や子供に多いヘアースタイルであることを喝破していました。これは、いくつかの分野の研究者が話し合っ分て分類方法や資料の収集方法を工夫した成果だと感心しました。これも総研大ワークショップだからこそと思わせるセッションでした。



さらに、参加した学生からは下記のような感想も寄せられ、今後の発展を期待されています。第3回、第4回と引き続かれていくことを願っています。

.....

今回の総研大ワークショップにおいて各分野の基礎知識の幅を広げることができた。しかし、イントロダクション的な発表が多く、博士課程に在籍する学生らの研究内容やその進捗状況などはあまり知ることができなかった。研究の学術的・科学的なポイントやどこまでその研究では明らかにすることができたのか、そしてその方法も詳しく紹介してもらいたかった。他専攻の学生にわかりやすく伝えることは大変で難しいが、それも博士課程の学生として身につけるべき能力であると思う。そして、総研大ワークショップは他専攻の学生同士の交流に加え、そういった解りやすく自分の研究を紹介する能力を養う場所として今後とも継続発展をしてもらいたい。

.....

【文責：全学事業推進室長 岩瀬峰代】

「平成20年度総研大文科・学術フォーラムについて」

文化科学研究科の今年の「フォーラム」は、平成20（2008）年の12月12～14日（金～日）、1日目が大阪北浜、2・3日目が梅田の会場で開催された。

「フォーラム」は、専攻を超えた学生の交流を謳った「学生合同セミナー」として平成16年に初めて行われ、翌年名称が「文科（文化科学研究科の略）フォーラム」に改まって、さらに3年間続いた。また平成18年からは教員主体の「学術フォーラム」も立ち上げられ、「文科フォーラム」に並行して行われていた。「文科・学術フォーラム」というタイトルには、本来同じ目的意識から生まれたこれらふたつの「フォーラム」が、今回初めて一本化したという意味合いが籠められていることを、まずお断りしておきたい。

以下、3日間の「フォーラム」を、プログラム内容に即して振り返ってみたい。

1日目（12日）

林海福学生企画委員長の開会宣言、高畑学長の挨拶に続いてオープニング・セッション。黒須研究科長による総論と、学生企画委員経験者が画像に説明を加える「文科・学術フォーラムの軌



跡と展望」によって構成され、ワークショップ「地域」へと移行した。これは2日目のシンポジウムのテーマを意識して、出席者全員で「地域」の捉え方を語り合ったもの。夜のレセプションも「実技による研究公表」も含めて大いに盛り上がった。

2日目（13日）

午前中は、各専攻の学生6名による口頭発表と質疑応答。今回は国外での調査報告は最初の1件のみ（モンゴル遊牧民のゴミ認識）だったが、以下春画・人骨・江戸時代の小説・植生変化・美術館という、有史以前から未来にかけて3万年の幅を持った、いかにも総研大らしく多様な研究対象が取り上げられた。1人20分というごく短い持ち時間だったにもかかわらず、質疑を含めて充実した内容であった。

午後は、教員によるシンポジウム「文化科学研究における「地域」」が行われた。今回のフォーラムの中核として、日本歴史研究の小島専攻長が全体をまとめたもの。研究科所属の教員5名（敬称略、発表順に竹沢尚一郎（人類学）・松田利彦（日朝関係史）・渡辺浩一（アーカイブズ学）・広瀬和雄（考古学）・青木久美子（コミュニケーション学、情報学））が、それぞれの学問的立場から「地域」に言及した。個々の内容に十分な聞き応えが備わっていたのと同時に、進



行と共に全体が交流し合い、ひとつの方向に流れ始めたのが、きわめて印象的であった。終了時間を30分延長して行われたが、その結果、「フラット化」（青木准教授）した現在・未来の社会にどう対処すべきかというところにまで議論が及び、教育論にまで発展したことは、特筆しておきたい。このシンポジウムの内容はやがて冊子化され、またWeb公開されるであろうが、フォーラムの貴重な記録として、ぜひ多くの方にご覧いただきたいと思う。

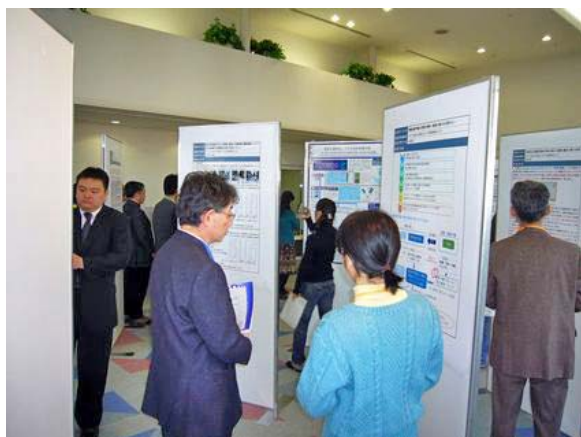


3日目（14日）

午前中はポスター発表。本来は、口頭発表同様、研究科のイニシアティブ事業経費を受給された学生の成果報告の場として設けられたものだが、今回は、教員も発表者として参加し、また全員による投票で優秀賞（学生のみ。5名）を選出した。午後は、ワークショップ「学際」。選ばれた5名のポスターに対してグループを形成し、メンバーの批評を生かしてそれぞれに再び発表してもらい、「ベストプレゼンテーション賞」1名が選ばれた。三輪専攻長（メディア）・近藤専攻長（比較文化）の講評を含め、ポスター発表のあり方について多くを学んだセッションであった。

教員側の担当者としては、学生企画委員をはじめ、関係教員・事務の一致協力によって、本「フ

オーラム」が新たな段階を迎えたことを、まずは素直に喜び、ご多忙の中をご臨席下さった高畑学長・野村副学長・平田学長補佐にも、心より御礼申し上げたい。



その上で、研究科を横につなぐ要である「フォーラム」を一層魅力的なものに育て上げるために、今後のより良い運営を模索して行きたいと考えている。

【文責：文化科学研究科副研究科長・日本文学研究専攻長 教授 大高洋司】

「総研大レクチャー：アジア冬の学校 2008」



物理科学研究科全体としてのテーマとして、「ゆらぎと構造形成の科学ー生命・物質・宇宙ー」が設定された。専攻を横断しての企画の可能性を探るために、自然科学研究機構の新分野創成型連携プロジェクトの会合も兼ねて、7月28日に分子研で各専攻の事業担当者によるコロキウムが行われた。天文科学専攻からは国立天文台の児玉忠恭准教授が「すばる望遠鏡が俯瞰する銀河・銀河団の形成と進化」について、大変興味深い話をされた。核融合科学専攻からは核融合科学研究所の石黒静児教授が「シミュレーションで探るプラズマ構造形成」を紹介された。また、宇宙科学専攻からは宇宙航空研究開発機構の後藤健准教授が「宇宙・航空用複合材料」について、セラミックスや炭素、プラスチックなど様々な複合材料がいかにかにロケット、衛星、航空機の性能向

上に必要かを興味深く話された。それぞれのアジア冬の学校は、実際には基盤機関での他の予算と合わせた企画として開かれることもあり、講師の相互派遣は困難だった。しかし、それぞれの企画についての有意義な情報交換がなされた。

構造・機能分子科学専攻が開催する総研大アジア冬の学校についてはテーマを「様々な時空スケールにおける分子科学」として9月に参加者の募集を開始した。外国からの応募は約4週間の募集期間で46名あり、熱心で切実な応募も多かったが、予算および宿泊施設の制限により26名を受け入れることにした。国籍別の内訳は、中国14名、タイ5名、韓国3名、イラン3名、バンラデシュ1名である。国内からの参加者は16名、うち総研大生は5名、国籍は日本、中国、フィリピン、タイ、ロシアである。12月9日（火）から12日（金）まで開催されたが、直前の11月25日夜から12月3日午前までバンコク国際空港が反政府団体により占拠され、空港機能が麻痺するという事態が起こり、参加者のみならず旅行代理店や事務方を含んだ大きな混乱が起きた。しかし幸運なことに、予想外の経路で来た人も含め、全参加者が岡崎にたどり着くことができた。9日（火）は受付と歓迎会が開かれた。

10日（水）は総研大および来年度から始まる奨学制度が紹介された後、米満が「有機導体の光誘起相転移とダイナミクス」および「有機導体における波動粒子二重性と相関」、平本教授が「有機薄膜太陽電池」（ちなみにこの講演に興味を持った参加者が最多であった）、横山教授が「金属薄膜の磁性と分光学的解析」について講義を行った。夜は軽食をとりながらのポスターセッションが開かれた。外国からは24件、国内からは13件、合計37件の発表があった。そのうち理論



研究が13件、実験研究が24件であった。11日（木）は桑島教授が「蛋白質折り畳みの分子機構」、斉藤教授が「液体のダイナミクスと非線型分光：理論と計算によるアプローチ」、大森教授が「分子における量子さざ波：観測と制御」、信定准教授が「実時空間での時間依存密度汎関数理論：レーザー場中の電子ダイナミクスへの応用」について講義を行った。夜の懇談会では、中村所長や総研大・物理科学研究科長の桑島教授も交え、異なる国からの参加者の間で交流が深まった。12日（金）は青野教授が「生物系の情報伝達に關与する金属蛋白質」、櫻井准教授が「バッキーボウルの化学：お椀型 π 芳香族化合物」について講義を行った。午後は研究室訪問などの自由時間とした。ほとんどは急なお願いにも拘らず、8研究室に参加者訪問の対応をしていただいた。

最後に、素晴らしい講義を行っていただいた講師の先生方、参加者の訪問を快く受け入れていただいた研究室の方々、お手伝い戴いた秘書の方々にお礼を申し上げます。

【文責：機能分子科学専攻 准教授 米満賢治】

【各種募集】・・・現在公募中の情報を掲載しています。

事 項	応募期間	提出先
第3回日文研出版翻訳プロジェクト http://www.nichibun.ac.jp/number/index.html	平成21年 3月末	国際日本文化研究センター

【イベント情報】・・・オープンキャンパス，入試説明会，入試など大学行事に関わるもの。

2009年1月

日程	時間	行事名	場所
6日(火) -9日(金)		高エネルギー加速器科学研究科 博士後期課程，及び生命科学研究所 遺伝学専攻・基礎生物学専攻；2009年4月(第2回)入学試験 出願期間	葉山キャンパス
8日(木) -9日(金)		先導科学研究科生命共生体進化学専攻；オープンキャンパス http://www.soken.ac.jp/news_all/0634.html	葉山キャンパス
13日(火) -16日(金)		先導科学研究科 生命共生体進化学専攻；2009年4月(第2回)入学試験 出願資格認定審査 書類提出期間	葉山キャンパス
16日(金) 又は23日(金)		総研大レクチャー 「科学映像の制作理論と制作」 http://www.soken.ac.jp/news_all/0533.html	葉山キャンパス
19日(月) -22日(木)		統計科学専攻；第2回 入学試験 http://www.ism.ac.jp/senkou/5years.html#2	統計数理研究所
19日(月) -2月6日(金)		極域科学専攻； 博士後期課程 第2回 入学試験 http://www.nipr.ac.jp/soken/examination02.html	国立極地研究所
23日(金) -29日(木)		先導科学研究科 生命共生体進化学専攻；2009年4月(第2回)入学試験 出願期間	葉山キャンパス
24日(土)	13:00-17:40	高等研プロジェクト シンポジウム 「子供の好奇心は教育を超える」	国際文化会館 岩崎ホール (葉山高等研究センター) 共催：日本子ども学会
27日(火) -29日(木)		生理科学専攻；第2回 入学試験	生理学研究所
28日(水) -2月5日(木)		高エネルギー加速器科学研究科；博士後期課程(第2回) 入学試験 http://www.kek.jp/sokendai/acc/admission.html	高エネルギー加速器研究機構 (つくば)
29日(木)		核融合科学専攻；第2回 入学試験	核融合科学研究所
30日(金)		天文科学専攻；第2回 入学試験	国立天文台三鷹キャンパス

30日(金)		宇宙科学専攻; 第2回 入学試験	宇宙航空研究開発機構 相模原キャンパス
http://www.isas.jaxa.jp/soukendai/examination/h20_3.html			

2月

日程	時間	行事名	場所
2日(月) -3日(火)		日本歴史研究専攻; 入学試験	国立歴史民俗博物館
2日(月) -3日(火)		構造分子科学専攻・機能分子科学専攻; 博士後期課程 第2回 入学試験	分子科学研究所
3日(火) -4日(水)		情報学専攻; 第2回 入学試験	国立情報学研究所
http://www.nii.ac.jp/graduate/applications/index1.html#4			
3日(火) -4日(水)		国際日本研究専攻; 入学試験	国際日本文化研究センター
3日(火) -5日(木)		遺伝学専攻; 第2回 入学試験	国立遺伝学研究所
http://www.nig.ac.jp/jimu/soken/graduate_program/annai54_n.html			
4日(水) -5日(木)		日本文学研究専攻 入学試験	国文学研究資料館
http://www.nijl.ac.jp/~kyodo/soken.files/siken/index.html			
4日(水) -6日(金)		基礎生物学専攻; 第2回 入学試験	基礎生物学研究所
5日(木) -6日(金)		地域文化学専攻, 比較文化学専攻; 入学試験	国立民族学博物館
http://www.minpaku.ac.jp/education/university/guide/			
23日(月)		日本文学研究専攻; 合格者発表	葉山キャンパス, 及び 国文学研究資料館
http://www.nijl.ac.jp/~kyodo/soken.files/siken/index.html			
24日(火) -25日(水)		共生体進化学専攻; 第2回 入学試験	葉山キャンパス

3月

日程	時間	行事名	場所
19日(木)	12:15~14:00	統計科学専攻: 学生研究発表会(平成20年第2回)	統計数理研究所
23日(月)		学術交流会	会場: 湘南国際村センター (葉山キャンパス)
24日(火)		3月学位記授与式	葉山キャンパス

<基盤機関の行事>

2009年1月

日程	時間	行事名	場所
3月31日(火) まで		企画展「インド刺繍布のきらめき-バシ ン・コレクションに見る手仕事の世界」	国立民族学博物館
http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/indo/			

6日(火) -3月1日(日)		パネル巡回展「日本の宇宙科学の歴史」	アクアトム 協力:宇宙航空研究開発機構
http://www.isas.jaxa.jp/j/topics/event/index_tenji.shtml			
4日(日) -30日(金)		パネル巡回展「太陽のふしぎ」	大洗わくわく科学館 協力:宇宙航空研究開発機構
http://www.isas.jaxa.jp/j/topics/event/index_tenji.shtml			
6日(火) -7日(水)		第9回 宇宙科学シンポジウム	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部
http://www.isas.jaxa.jp/j/researchers/symp/sss9/index.shtml			
10日(土)	14:30-17:00	日文研シンポジウム アジア女性はどこへ行く ーグローバル化とジェンダーの再編成ー	国際日本文化研究センター
14日(水) -15日(木)		第25回 宇宙利用シンポジウム	共催:宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部
http://www.isas.jaxa.jp/j/researchers/symp/surc25/index.shtml			
16日(金)	14:00-16:00	第220回 日文研フォーラム 志賀直哉の関西観	ハートピア京都 主催:国際日本文化研究センター
http://www.nichibun.ac.jp/event/forum.html			
18日(日)		宇宙学校・きょうと	京都市青少年科学センター 主催:宇宙航空研究開発機構
19日(月)	18:30-19:45	平成20年度市民講座 言語情報とコンピュータ「人間の文法とコンピュータの文法とは何が違うのか？」	国立情報学研究所
http://www.nii.ac.jp/shimin/index-j.shtml			
19日(月) -20日(火)		平成20年度 宇宙輸送シンポジウム	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部
http://www.isas.jaxa.jp/j/researchers/symp/index.shtml			
25日(日)まで		パネル巡回展「月のふしぎ」	郡山市ふれあい科学館 協力:宇宙航空研究開発機構
http://www.isas.jaxa.jp/j/topics/event/index_tenji.shtml			
31日(土)	10:30-11:20	常設展示ギャラリートーク	国立歴史民俗博物館
http://www.rekihaku.ac.jp/events/regular/gallerytalk.html			

2月

日程	時間	行事名	場所
3日(火) -26日(木)		パネル巡回展「太陽のふしぎ」	岩見沢郷土科学館 協力:宇宙航空研究開発機構
http://www.isas.jaxa.jp/j/topics/event/index_tenji.shtml			
7日(土)	10:30-11:20	常設展示ギャラリートーク	国立歴史民俗博物館
http://www.rekihaku.ac.jp/events/regular/gallerytalk.html			
18日(水)	18:30-19:45	平成20年度市民講座 文化情報とコンピュータ「文化遺産を未来に継承するデジタル化の技術とは？」	国立情報学研究所
http://www.nii.ac.jp/shimin/index-j.shtml			

21日(土)	10:30-11:20	常設展示ギャラリートーク	国立歴史民俗博物館
	http://www.rekihaku.ac.jp/events/regular/gallerytalk.html		
23日(月)		統計数理研究所公開講座「マルコフ連鎖モンテカルロ法の基礎と実践」	統計数理研究所
	http://www.ism.ac.jp/lectures/20p.html		
28日(土)		宇宙学校・とうきょう	東京大学教養学部 11号館 1106教室 主催:宇宙航空研究開発機構

3月

日程	時間	行事名	場所
4日(水) -4月5日(日)		パネル巡回展「太陽のふしぎ」	アクアトム 協力:宇宙航空研究開発機構
	http://www.isas.jaxa.jp/j/topics/event/index_tenji.shtml		
7日(土) -22日(日)		パネル巡回展「日本の宇宙科学の歴史」	宮崎科学技術館 協力:宇宙航空研究開発機構
	http://www.isas.jaxa.jp/j/topics/event/index_tenji.shtml		
7日(土) -26日(木)		パネル巡回展「月のふしぎ」	綾部市天文館/パオ 協力:宇宙航空研究開発機構
	http://www.isas.jaxa.jp/j/topics/event/index_tenji.shtml		
18日(水) -19日(木)		年度研究報告会	統計数理研究所
20日(金)		自然科学研究機構シンポジウム	東京フォーラム

<教員の受賞情報>

物理科学研究科

機能分子科学専攻

○ 平等拓範 准教授

財団法人光産業技術振興協会 主催 第24回(2008年度)櫻井健二郎氏記念賞 受賞

○ 山下靖文 助教 及び 鄭 誠虎 助教

日本物理学会 主催 第3回(2009年)日本物理学会若手奨励賞 受賞

核融合科学専攻

○ 本島 修 専攻長・教授

米国核融合エネルギー協会 主催 優秀功績賞(Distinguished Career Award) 受賞

複合科学研究科

統計科学専攻

○ 吉田 亮 助教 及び 樋口知之 教授

19th International Conference on Genome Informatics (GIW2008)にて
「FINALIST - BEST PAPER AWARD」 受賞

情報学専攻

○ 宇野毅明 准教授

19th International Symposium on Algorithms and Computation (ISAAC2008)にて
最優秀論文賞 受賞

○ 新井紀子 教授

文部科学省科学技術政策研究所 発表 「ナイスステップな研究者」に選出

- 北本朝展 准教授
情報処理学会 人文科学とコンピュータ研究会 主催 じんもんこん 2008 にて
西村陽子特任研究員とともに 最優秀論文賞 受賞
- 胡 振江 教授
日本ソフトウェア科学会 主催 第 25 回日本ソフトウェア科学会大会 にて
第 25 回高橋奨励賞 受賞

生命科学研究科

- 大隅良典 生命科学研究科長・教授
朝日新聞文化財団 主催 朝日賞受賞

葉山高等研究センター

- 池内 了 センター長・理事・教授
関科学技術振興記念財団 主催 パピルス賞 受賞

【編集後記】

明けましておめでとうございます。

本年も「総研大ニューズレター」をよろしくお願いいいたします。

総研大ニューズレター第 8 号をお届けします。

2009 年、新しい年が始まりました。2008 年はアメリカの金融不安から始まった不況が世界を襲い、日本もごたぶんにもれずに急激に雇用環境等が悪化し、暗い年の瀬となりました。新年の穏やかな天気のように日本の経済環境が少しでも好転し、明るい 1 年になることを祈っております。

さて、総研大に目を転じますと、本学も創立 20 周年を迎え、12 月には記念フォーラムが開催されました。本学の今後を期待させるような講演が多数あり、非常に意義深いものであったと思います。

また、今回のニューズレターの掲載のとおり、本学の教員の受賞等が相次いでいます。受賞された先生方および関係者の皆さんに心よりお慶びを申し上げます。

今年もこういう明るい話題を中心に総研大のニュースを皆さんにお届けできればと思っておりますので、引き続きご協力くださるようよろしくお願いいたします。

[総務課]

◎各専攻で教員や学生がメディアに出演が決まっている場合や、発表や表彰等があった際にはご連絡ください。またメディア等に出演される場合は、可能な限り「総合研究大学院大学」と表記していただけますようご協力お願いします。

発行 2009 年 1 月 7 日

編集



国立大学法人
総合研究大学院大学
THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES

広報委員会

神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）

総務課広報係（担当）

TEL 046-858-1590/FAX 046-858-1542

E-mail: kouhou@ml.soken.ac.jp

©2008 SOKENDAI